+博論書式 3(論博書式 3)

平成 31 年　1 月　17 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分　　野	理学療法学
学籍番号	16S3061	院生氏名	湊有彩
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論　文　題　目	背景音楽が身体および精神作業に及ぼす影響		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

１．主論文の内容と概略

本研究は、曲調の異なるさまざまなジャンルの背景音楽が、反応時間，筋力，作業効率といったものにどのような影響を与えるかを確かめることを目的としている。最初の研究では健常成人 20 名（男性 7 名：21.0±2.1 歳，女性 13 名：21.0±1.9 歳）を対象とし、4 種類の異なる背景音楽（洋楽，クラシック，アニメソング，オルゴール）を聴取中と無音時の安静座位での単純反応時間を比較している．結果，洋楽群はオルゴール群，クラシック群よりも有意に速い反応時間であることがわかった．次の実験では，健常成人 20 名（男性 10 名：20.5±2.1 歳，女性 10 名：20.6±1.9 歳）を対象に，4 種類の背景音楽と無音時に発揮する膝伸展筋力を比較している．膝の伸展筋力は等尺性収縮で徒手筋力計 MT-100(酒井医療)を用いて測定した．この結果，無音を含む 5 群間で有意な差は認められなかった．先行研究での歩行などタイミングを必要とする課題と異なり，瞬発的な筋力の発揮に対する音楽の効果は低く，課題特異性が示唆された．3 つめの研究では，精神的な課題として内田クレペリン検査による 3 分間の足し算の単純計算がとりあげられた．対象は健常成人 25 名（男性 12 名：21.0±2.1 歳，女性 13 名：21.0±1.9 歳）で，3 分間の計算回答数の背景音楽による違いを確かめている．解析の結果，オルゴール群がアニメソング群よりも回答数が有意に多いという結果が得られた．

これらの実験結果から，反応時間，計算課題のような認知的処理を含む精神的課題において背景音楽の選択による効果が得られ，課題に応じた音楽の種類の選択の必要性が示唆されたとしている．

本研究は国際医療福祉大学研究倫理審査委員会(17-Io-153, 18-Io-12, 18-Io-12)を得て行われている．その結果は限定的ではあるものの，実際の臨床場面においても特別な理由はなく選択されている背景音楽を考慮する必要性を指摘する研究としてその意義と新規性を評価する。

２．審査経過

平成 30 年 12 月 13 日、1 回目の審査を行った。この中では，音楽の種類選択に関わる好みの聴取結果，詳細な実験手順，音楽間の周波数特性の違いなど，実験デザインについて記述が不足していることなどが指摘され，論文の大幅な修正が要求された．12 月 30 日に修正論文が提出され，審査員間で再度検討したが，指摘点に対する修正が十分ではなかったため，さらなる修正を促した．結果，1 月 6 日に最終的な修正版の論文が提出された．口頭試問の応答とこの最終版の内容から審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者		
	主　査	谷　浩明
	副　査	糸数　昌史
	副　査	阿部　晶子